

本プログラムへの参加理由

今までに海外に行ったことがなく、海外の暮らしや日常を直接感じてみたかったから。そして以前から獣医の学問に触れてみたいと思っており、実習内容を見た時に興味を持ったから。

実習内容

実習は1日の中で午前と午後で分かれており、午前はそれぞれの馬術様式の異なった、ウェスタン馬術を学ぶウェスタンファーム、ブリティッシュ馬術を学ぶイングリッシュファームに1日ごとに通った。午前の実習内容は馬についての餌やりや馬房の掃除といった基本的な馬の管理の仕方から、薬の投与や注射といった医療行為も行なった。その他にも馬の種類や体と顔の模様、部位の名称、乗馬器具の扱い方も教わり、さらに乗馬をする際の馬への指示や乗り方も学ぶことができた。午後は家畜について学ぶ、アニマルサイエンスというプログラムに参加した。こちらはウェスタンファームの敷地内にある実習場で行なわれ、去勢や除角といった普段経験することのない手術体験をすることができた。

感想

私がこのプログラムに参加した理由は、「海外に行きたかった」が99%で、残りの1%は「動物が好き」という理由です。先程、獣医の学問に興味があると述べましたが、正直それだけでは海外に行こうとは思えませんでした。加えて私は循環農学類ですし、留学で獣医学を学んだとして薬の名前などが今後役に立つとは思えません。それでも今回のプログラムに参加したのは自身の中での海外への興味関心が、他のどの要素よりも強かったからです。

結論から言うと、理由は簡単なもので十分でした。「アメリカっぽいものが見てみたい」や「本場のハンバーガーを食べたい」など、浅はかな理由と思うかもしれませんが、私の中では十二分に事足りる理由で、実際、留学をとっても楽しいものにできました。アメリカにいる時も「アメリカで何がしたい？」と問いかけられた時に、簡単な理由だからこそみんなが知っているものだったり、身近にあるものだったりして話が盛り上がりました。

たしかに、実習の内容は獣医学の内容で薬の名前がでてきたりメスを握ったり、注射をすることもありました。内容が難しい上にすべて英語で説明されるため、何を言っているのか分からない時もありました。

しかしアメリカで実習をこなすうちに、実習は実習に過ぎずそれは新しい知識を得るためのものとして割り切り、自分が海外でやりたかったことをやればよいということに気づきました。それに、たとえ内容が難しかったとしても、何回も聞き返したりメモをして後で見返して調べたりすれば、いずれ分かるようになります。さらに私は、自分の知らないことを学んでいるうちに、新しい知識を身に付けることが楽しいとすら感じてきました。

大事なことは自分から楽しもうとすることです。私は馬術について何も知らないまま、実習で馬術について学びました。もちろん最初は何を言っているかなどは微塵も分からず、目で追っただけで精一杯です。何もわからないのに内容だけはどんどん先に進んでいきますし、留学序盤のほうは質問できるだけの勇気も言語力も持っておらず、実習始まって3日ほどは頭の中が混乱していました。しかし、お世話をしている時の馬はいつ見ても可愛いく、実習中に馬に触れているだけでとても癒されるのです。そこで私は、馬を可愛がるために実習に来ていると思うようにしました。すると、馬に関係する単語、特に体毛や模様の単語が2回程見ただけで印象に残るようになってきて、徐々に単語だけ聞き取れるようになったのです。そして同時に、馬の個性に注目するようになり、特徴や歩き方という部分の知識が途端に覚えやすくなっていきました。そこから派生して、馬術の技や馬の状態やその他の説明など専門的な内容も比較的簡単に聞き取れるようになり、最後は馬術に少し詳しくなることができました。私は馬術に対して何も知らなかったけれど、動物が好きで馬が可愛いと思ったのでそこを楽しもうと思いい、結果的に何も知らなかった馬術についての知識を身に付けることができました。分からないことを嫌いになるということの解決策を見つけられたと思っています。

留学でコミュニケーションの考え方にも影響を受けました。留学に行く前までは英語の単語や文法などが不安で仕方なく、相手と会話することができるか心配でした。会話ができないと自分の伝えたいことが伝わらないので、結局何も分からないままになると思っていました。しかしそれは私の思い込みで、実際に話してみると相手はこちらが伝えたいことを一生懸命に理解しようとしてくれていて、こちらに求められているのは伝えようとする力だと分かりました。単語力や文法力よりも、伝えたい内容を自分の持っている知識の中でいかに伝えることができるかが重要であり、それがコミュニケーションに必要とされているのだと思いました。当たり前ですが、言語より内容が大事であるということに加え、単語や文法も重要だということに気づくことができたのです。私は今回の留学で学問についての知識というより、物事の考え方や捉え方の部分を学べた気がします。それがこれからの自分にどのように影響してくるのか分かりませんが、この留学がよい経験になったことは確かです。

初めて日本の外に出て、学んだことは非常に多く、とても大きいものでした。アメリカで会ったすべての方々が親切で、毎日が楽しく、充実した3週間で過ごすことができました。留学に関わった全ての方に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



フィンドレー大学のキャンパスの1つ
オールド・メイン



イングリッシュファーム前



アニマルサイエンスビルディング



アニマルサイエンスビルディングの
去勢前の子豚



ペットホテルの施設での写真



アニマルサイエンスビルディングの
子羊



馬に筋肉注射するグルコサミン



馬の筋肉注射



イングリッシュファームで乗った馬、
スクワード



去勢するために子牛を捕獲



アニマルサイエンスビルディングのアルパカ



ウェスタンファームの中で一番体高が
大きい馬、スー



アメリカで2番目に大きいらしい
ファストフード店、チックフィレイ



アメリカに来て一番驚いた牛
乳の大きさと安さ



ウェスタンファームのマネージャーの
キャロル、リンダとスタッフのジョー
ダン



トレド動物園



本プログラムのパイオニア、ベケット
先生



留学最終日前夜のピザパーティ